

## 第4章

# $\epsilon_0$ の黙示録

### 淡中 圏

この黙示は、神が、すぐにも起こるべきことをその僕たちに示すために、御使をつかわして、僕であるわたしに伝えられたものである。

この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書いてあることを信じる者たちはさいわいである。時が近づいているからである。

今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能射にして主なる神が仰せになる、「わたしは $\aleph$ であり、 $\omega$ である」。

わたしは神を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、神は正しい手をわたしの上において言った、「恐るな。わたしは始めであり、終わりであり、また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、わたしは長完全系列である。そして、暗黒面への鍵を持っている」。

主なる神は言われた、「見よ、そして見たことを人々に伝えよ。耳のあるものは、御霊が言うことを聞くが良い」。

その後わたしが見ていると、御使が現れて、天全体に響くように高高と喇叭を吹き鳴らした。すると水の中から、巨大な龍が現れた。数え切れないほどの首をうねらせていた。

その数は、天に昇る聖なる矢印記号を使えば、

$$\begin{aligned}
 g_0 &= 4 \\
 g_1 &= 3 \uparrow \uparrow \uparrow 3 \\
 g_2 &= 3 \underbrace{\uparrow \dots \uparrow}_{g_1 \text{本}} 3 \\
 g_{k+1} &= 3 \underbrace{\uparrow \dots \uparrow}_{g_k \text{本}} 3 \\
 g_{64} &= \text{グラハム数}
 \end{aligned}$$

となるグラハム数よりもさらに多かった [3]。

再び御使がラッパが吹き鳴らした。

すると、 $\omega$  を肩に担いだ  $\omega^\omega$  が現れ、 $\omega^\omega$  を肩に担いだ  $\omega^{\omega^\omega}$  が現れ、そして肩に担いだものを肩に担いだものが現れ続け、 $\omega^{\omega^{\omega^{\dots}}}$  となり、ついに立ち上がって  $\epsilon$  となった。

そして、龍の首を次々と切っていった。

もしその首が龍の大元から生えているならば、何も起こらない。しかしそれ以外の場合

は、その首の生えている首の複製が、そのさらに根元の首にいくつも生えるのだった [6]。

それによって首はさらに増えていった。

わたしには、切られる首がどのような手順で選ばれているか理解できなかった。

わたしには、それが終わると思えず恐れ戦いた。

しかし、再び主なる神の声が聞こえた、「見よ。いかなる術も必要ない。いかなる技に従っても、必ず有限の時を経て、龍は打ち倒される」。

わたしの見ている前で、その通りになった。

「今は理解できないかもしれない。しかし良き石 [8] を手に入れ、一階の数の体系の一貫なることを証立てる技を知れば、分かるだろう」。

神は言われた、「いずれ新たな龍が現れる。ブーフホルツのヒドラだ [10]。しかし、その時も、新たな順序数立ち上がりて、必ず龍を打ち倒す」。

その時わたしは、自分の体が浮き、天に引き上げられるのを感じた。

「しかし見よ。さらに大きな龍が世界を覆っている。歴史という名の龍である」。

わたしの眼前で、いくつもの光景が繰り広げられた。人々が戦い、騙し合い、お互いに殺し合っていた。凄まじい炎が人々を焼き払った。見えないウイルスが世界に振りまかれ、人々は全身から血を吹き出して死んでいった。

それらの光景がいくつも枝分かれする濁流となって、時を押し流していた。それが歴史という名の龍であった。

神は言われた、「いつに日か、かつて矛盾をきたして楽園を追われた順序数の眷属である一つの順序数が立ち上がり、歴史という名の龍を打ち倒す」。

その順序数は自らにより歴史を順序づける。数え、測り、分ける。

その順序は、時の流れの中で世界がどの歴史の分岐を選び取っても、その順序によれば必ず順序が低くなるような順序である。その順序を低くする系列は、必ず有限回で終末を迎える。すなわち、その順序数の力を持つ超限再帰によれば、歴史の終わりが証立てられるのだ。その順序数により、この汚穢に満ちた世界の歴史の終わりが、誰の目にも明白になる。このような順序数が、必ずや現れるだろう」。

神の声が遠くなっていった。神は最後に言われた、「ここに謎がある。知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字は 666 [11]」。

アーメン。

## 参考文献

- [1] ヨハネの黙示録 (口語訳) [https://ja.wikisource.org/wiki/ヨハネの黙示録 \(口語訳\)](https://ja.wikisource.org/wiki/ヨハネの黙示録_(口語訳)) . 2018/08/07 Access.
- [2] ダニエル書 (口語訳) [https://ja.wikisource.org/wiki/ダニエル書 \(口語訳\)](https://ja.wikisource.org/wiki/ダニエル書_(口語訳)) . 2018/08/07 Access.
- [3] 小林 銅蟲. 寿司 虚空編. 三才ブックス. 2017.

- 
- [4] 巨大数研究 Wiki/ グラハム数 <http://ja.googology.wikia.com/wiki/グラハム数> . 2018/08/07 Access.
- [5] 巨大数研究 Wiki/ ヒドラゲーム <http://ja.googology.wikia.com/wiki/ヒドラゲーム> . 2018/08/07 Access.
- [6] Kirby, L./Paris, J. Accessible Independence results for Peano arithmetic. Bullerin of the London Mathematical Society 14: 285-293. 1982.
- [7] 巨大数研究 Wiki/ グッドスタイン数列 <http://ja.googology.wikia.com/wiki/グッドスタイン数列> . 2018/08/07 Access.
- [8] Goodstein, R. On the restricted ordinal theorem. Journal of Symbokic Logic 9: 33-41. 1944.
- [9] 巨大数研究 Wiki/ ブーフホルツのヒドラ <http://ja.googology.wikia.com/wiki/ブーフホルツのヒドラ> . 2018/08/08 Access.
- [10] Hamano, M./Okada, M. A direct independence proof of Buchholz's Hydra Game on finite labeled trees. Arch. Math. Logic 37: 67-89. 1998.
- [11] Shelaha, S. On what I do not understand (and have something to say): Part 1. <https://arxiv.org/abs/math/9906113> .